

自殺話

吉良上野介は自分の妻より
自殺を奨められていた

中島康夫

元禄事件の終わった元禄16年中に書き上げられた「赤穂鐘秀記」(以下「鐘秀記」という)という記録がある。

この書は「赤穂義人録」を残した儒者室鳩巢の下でレポーターをしていた、同じ加賀前田家の儒臣で小谷継成(学名谷勉善)という家臣の執筆した覚書である。江戸で他の奥村脩運や万里知幾と共同で金沢の室鳩巢に情報を送っていた一人である。

その「鐘秀記」中巻に、上野介が妻(参姫)より、松之廊下事件後「自殺」を奨められていたという件が示されているのである。

一、上野介奥方は、故上杉弾正大弼定勝御息女にて、去年上野介於堂中に喧嘩の首尾不宜候段を被聞傳被申候は、結構成上意にて御存命は目出度候得共、込内匠頭家来中鬱憤を挟み可罷有候間、子共を不便に思召候はゞ、御自殺可然旨、達て奥方諫言候得共、承引無之、却て立腹故、不和に成被申夫より奥方は上杉家え去年より被引越、其後終に對面無之由の事 (史料A)

この、妻が自分の夫に自殺を奨めていたという事は、元禄事件解明に大いに重要な事なので、吉良上野介に関心のある方々のためにも解説をしてみたい。

まず、この残された覚書によると参姫曰く

「上杉家の残された子供たちや家族を思うならば、自殺をして下さい」と言ったというのである。

これに対して、上野介は大変立腹して、夫婦の間は不和になり参姫は実家の上杉家に引越してしまったというのである。

この自殺進言の一件から推察できることは、次の通りである。

- (一) に、参姫が自殺を奨めたということは、松之廊下事件の判決が余りにも偏った判決で、そのことは、参姫にも判断が出来たということにつきる。その為、義を重んじ上杉謙信の武士魂を継ぐ家柄として上野介だけが生き残っていることの、片落ちの判決が、参姫に申し掛かってきていたと推測される。
- (二) に、その上参姫にとって自分の兄(上杉綱勝)まで、上野介に殺害された過去があったこと。
- (三) 更に、日頃上野介の性格(悪さ)が、高家として余りにひどく、耐えられないこと。

参姫のこの一件を知れば、松之廊下事件後、いかに、元禄事件の推移が不条理に進んでいったかが判然する。

現代の元禄事件を執筆している作家たち、評論家、テレビ解説者たちは、こうした奥深い史料など知るよしもなく、只々ドラマや素人研究者が執筆した三流本を見ながら解説をして世に黴菌を撒き散らしているのが現状である。

とにかく、吉良上野介という男は、一級史料の上からも、ドラマ以上の大悪人であることを国民は知るべきである。

NPO 法人

忠臣蔵倶楽部会報

発行人

〒135-0047

東京都江東区富岡 1-17-1-403

忠臣蔵倶楽部

TEL&FAX 03-3630-1927

編集者 中島康夫

ホームページ

忠臣蔵会館

出版・校正・協力

テレビ製作協力

講演・史跡案内

<http://www.chuushingura.net/>

寺坂吉右衛門

定価 1800 円

(消費税含)

送料 350 円

048-973-3777

郵便局の払込票をご利用下さい

中央義士会

00250 9 139100

裏 話

私共「忠臣蔵倶楽部」は、東京都より認可を受けているNPO法人の忠臣蔵の研究団体でございます。会報や配布物に有りもしない「事」を書きたて、歴史を改竄しようとする団体ではございません。史学を中心とした団体で。片寄った団体ではないと負しております。

これまで年に一度、6月頃私共会報において4～5回、吉良上野介の悪行の一部を発表して参りました。しかし、西尾市並びに旧吉良町の方々より何のお答えも頂けませんでした。そのことは「相手にしない方が良い」という方策でしょうか。それとも反論できる方がおられないのでしょうか。「吉良名君」の証拠が見つからないのでしょうか。

我々団体としては、一日も早く「吉良名君」の証しを知りたいのです。そうすれば反目することもなく平和に過ごせると思うのです。

その、「吉良上野介はドラマ以上の悪人」説の忠臣蔵倶楽部印刷物での発表に、これまで、文部科学省からも東京都からもお叱りや注意も受けておりません。余りにもひどい有りもしない中傷を書きたてているのでしたら、先ず、認可先の東京都より注意を受けるはずですが、何の連絡もございません。ということは、歴史には「いろいろな説」があるからと、目こぼしいたっているのでしょうか。いやいや、この「元禄赤穂事件」は「説」等は少ないのです。「説」等というものは、100に2つもあれば良いのであって、「説」等とほのめかす方は、自分の勉強不足でわからない部分を説に切り替えているのです。

以前から思っていた「事」ですが、一度「吉良上野介」が「名君」か「悪人」かを現代の裁判所で裁いていただきたいと考えておりました。どうです、西尾市の市長様、俎上にのせて見ませんか。注目をあびておもしろいと思いますよ。当然、西尾市は敗訴することでしょう。でも、心配いりません。以後は「極悪人」で世に喧伝して売り込めば観光客は減りません。

中島康夫

「江赤見聞記」の一部考察

中島康夫

元禄赤穂事件研究の専門史料の内、「江赤見聞記」（以下「江赤」という）といえば、絶対必需史料である。この「江赤」（第六編）までは、「三次分家済美録」等の当時の三次家家臣による記述により、編纂者は、瑤泉院用人落合与左衛門と判断することに異論はないと思う。

唯、この史料は一級史料でありながら、所々で落合独特の日替、人数替、内容替が見られ、それに気付く研究者は少ない。最初に活字化した岡謙蔵ですら見抜けなかった。

今回は、その内、第六編の次の文章を考察してみたい。

「十二月十四日の晩方、近松勘六家来甚七と云う者、内蔵助より飛脚に罷り成り、瑤泉院様御家来落合与左衛門方へ罷り越す。是は今宵打ち込みの由、これにより金銀相払い何角の諸帳差し越す。尤も瑤泉院様御金千両の内、七百両は返上、残り三百両、此度の入用のため拝領仕り、何角支払い、七両内蔵助金子出し候由、算用帳共差し越し、その外書付共残らず差し上る」（史料A）

もし、史料Aの内容の異変に気付かない研究者がいるとしたら、少なくとも「甚七」なる人物の説明ぐらひはしてほしいものである。

そこで、右の史料Aに対して左の（史料B）を提示するので目を通してもらいたい。

「瑤泉院附落合与左衛門覚書」

前田市右衛門亮正、大石内蔵助良雄之行実を書記し、後世迄も残置度所存二而予が見聞之慥成事あらば爰に書付よと所望二依如左。

一内蔵助良雄忠志之輩申合、上野介殿宅江夜討之前呼、十二月十三日予が方江挾箱程成箱一つ油紙二而包、指札ヲ附京都より来候由二て町飛脚之者旅装束にて持参、伏見屋五兵衛ト宛所二而、右之荷物請取手形を具よと申候二付請取申候手形遣也、開見候へば十一月廿九日之書状有、赤穂引渡始中終之次第城付之米金銀諸道具払候代銀之請取等也、委細ハ帳面有、家中諸士末々迄遣候金子之残り六百九十兩余之分、離散之時分持退両年内一味同心之者共へ要用二遣金七兩不足二付、自分金子相払候趣之帳面有之、右之通瑤泉院殿・浅野大学殿にも委細申達候、

一上野介殿宅江討込候て事済申候以後、十二月九日之日付二而自筆之書状到来、上野介殿江討込候忠士之家名又者一味之輩、変心之輩ノ書状共繼立夜討之場所二残置候書付之写等も来候、右之油紙包の箱京都より来候迄予も存候所、十五日朝上野介殿御仕合承候而、扱は右持参之者ハ作り飛脚かと存当り候、扱其後町飛脚に成来候者ハ、何者かと聞候ハ近松勘六家来甚三郎ト申者之由、此甚三郎事勘六に附添、夜討之場迄奉公勤申候者之由也、一於高野山悉地院にハ華獄院殿・台雲院殿・久岳院殿。高光院殿・景永院殿・戒珠院殿・冷光院殿之

日牌料備置、悉地院之証文も有之、

一於赤穂、花獄寺・大連蓮寺・高光院三ツ寺にも田地寄附之書付等も委細有之、

一京都紫野大徳寺中端光院に冷光院殿御位牌・御石塔を建為祠堂金百両を以、西加茂河上村丸山一ヶ所相調永不断絶様附置候、右山之証文も有之候、始中終残所も無之仕形、寔に尋常の人に非ず、英雄の義士と謂うつべし、関心の至り爰二筆記 畢
于時宝永五戊子歳正月日

浅野土佐守家臣

瑤泉院守役

落合与左衛門

勝信 花押」

（史料B）

以上、資料Bは中央義士会の会報よりの出典ではあるが、これを残したのが浅野長恒の家臣で、前田市右衛門という者である。

そして、この市右衛門は、元禄事件の起こった元禄・宝永年間に生存していた人物であったこと。更に、赤穂義士史料にも市右衛門の書状が何通か残っていることを考えると偽書とは思えない。

宝永五年（一七〇八）市右衛門が落合与左衛門と会った時に、自らの手記「亮正記」に、加筆を懇願したのである。これが俗にいう「落合与左衛門覚書」である。他資料と付き合わせれば、これ程確かなる資料は他にはないと断言できる。

ここで少し、資料Aと資料Bを比較してみると、資料Bの方が全ての専門史料とも合致するし、市販

されている義士本の虚偽をあばくことにもなると思ふ。

資料Aと資料Bは、どちらも落合が記した史料ではあるが、「江赤」には編集している部分が多いということである。

なぜ、十六品目を運んだのが甚七なのか。

なぜ、討入り費用が三百両なのか。

いふなれば、資料Aの文書を鵜呑みにはできないということである。

落合が何のために編集しているかは、現段階では計り知れないが、実際に「甚七」なる人物は事件に関係ない。落合が生み出した架空の人物である。従って、資料Aも一行一行文章を確認しながら考察していく必要がある。

しかし、落合は、宝永五年には真実を述べている。瑠泉院持参金の総額が千両であったこと。三百両という数字は、未回収金額であること。十六品目が落合まで運ばれたのが、十二月十三日であること。運んだのは甚三郎一人であったこと。内蔵助の十一月二十九日の書状も十二月十三日に落合まで届けられていること。瑠泉院のみならず、広島の浅野大学にも使者が走っていたこと。以上のことは、寺坂吉右衛門が何のために上方へ走ったか、この資料Bで氷解すると思う。また、内蔵助の十二月十九日の書状は存在しないこと。右に挙げた真実でどれ程の元禄事件の謎が解決するか計り知れない。

更に、滋賀県野洲市には、甚三郎の実家があり、十六品目を運んだ挟箱も現存する。ここに至り「何をか言わんや」である。

寄附金のお願い

NPO法人忠臣蔵倶楽部は、忠臣蔵史実の普及を目指して、非営利活動法人として創設されました。皆様の会費並びに寄附金によって運営されております。

昨今の忠臣蔵への関心度が低くなり、若い人達の中には、大石内蔵助の名前さえ知らない方々もいます。また、フェイクニュースによって、忠臣蔵の史実がゆがめられ、拡散される事態も生じております。

皆様の寄附によって少しでも、史実の普及を目指していきたいと思ひます。

寄附いただける方は、下記へご連絡下さい。または、郵便局から青色の払込取扱票で寄附金をお送り下さい。

連絡先 080-8908-1633 FAX 03-3630-1927

メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

送金先 非営利活動法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

旗本天野弥五右衛門の御子孫を探しております。

元禄の大久保彦左衛門・天野弥五右衛門は元禄赤穂事件に大きく関わっている人物とNPO法人忠臣蔵倶楽部では見ております。どんなことでも結構です。

〇八〇―八九〇八―一六三三までご一報下さい。

浅野内匠頭の母堂八姫のお墓を探しております。

八姫のお墓は戦前までは、小石川の無量院にありましたが、無量院が爆撃を受け、廃寺になり、その後、行方知れずになりました。戒名は、戒珠院理菴栄知大姉です。

〇八〇―八九〇八―一六三三までご一報下さい。

近年の歴史番組の良いところ

今から十年以前のテレビ歴史番組の解説者は、作家が殆どでした。近年はプロデューサーも気付いたのか、学者の出演が多く見られます。この事は真実を探る意味からも大変良い傾向です。

NPO法人忠臣蔵倶楽部では、月に一度(新橋で)忠臣蔵勉強会を行っております。

あなた様のお考えも伺わせて下さい。どこにもない強烈な史料で勉強してみませんか。作り話より真実の方が何倍も面白いですよ。

現代のいじめと忠臣蔵のいじめ

萩原 栄

今年の1月7日付けの埼玉新聞に次の記事が載った。

元生徒側は「保護者会での学校側の説明が親子を悪人に仕立てる虚偽の内容だった。学校が事実と異なる説明を繰り返したことが、ネット上で元生徒を誹謗中傷する投稿が激しくなった一番の原因だ」と訴えている。 一中略一 元生徒の母親は「書き込みされた誹謗中傷のほとんどは事実ではない。その上、実名までさらされたのは許せる範囲を超えた。匿名なら身元が分からないという安易な考えで人を中傷し、あらぬうわさを拡散する行為が卑怯で悪質であることを、知ってほしい」と話している。

学校を「吉良名君説者」と置き換え、親子・元生徒を「浅野内匠頭」と置き換えると、正にこの文は、現代の、吉良上野介のいじめ問題を否定する動きと同じになる。

「吉良名君説側の説明が浅野内匠頭を悪人に仕立てる虚偽の内容だった。吉良名君説者が事実と異なる説明を繰り返したことが、ネット上で浅野内匠頭を誹謗中傷する投稿が激しくなった一番の原因だ。書き込みされた誹謗中傷のほとんどが事実ではない。安易な考えで浅野内匠頭を中傷し、あらぬうわさを拡散する行為が卑怯で悪質であることを、知って欲しい」

ここで、ネットとしているがネット上だけではなく、テレビや雑誌、本などのメディアとしても同じである。

いじめは学校だけではない。会社など大人の世界でも行われている。いわゆるパワハラである。極端な場合、いじめられた方はついに進退窮まって、自死してしまう。元禄14年の江戸城でもいじめは行われていた。しかし、いじめられた方が、5万石の城主であったことから、忍に絶えず、刀を抜いて切り付けてしまったのである。

現代の学校でもいじめの事実を認めようとしないことが、事を大きくしている。同様に、吉良上野介のいじめの事実を認めない人びとが、吉良上野介名君説を生み、吉良上野介はよい人だったという、復権の動きになっている。

吉良名君説を唱える人はよく、吉良上野介が悪者になったのは、歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」により、吉良上野介が悪人に仕立てられたからだ、と言う。しかし、「仮名手本忠臣蔵」は寛延元年（1748年）の初演である。元禄14年（1701年）の3月、4月にはすでに、吉良上野介の性格の悪さや横柄なことが、日記や手紙として残されている。また、いじめがあったことも残されている。これらを読まないか、または意図して読まない人が、逆に、吉良上野介という年寄りが、精神的におかしな浅野内匠頭によって、いきなり切り付けられ、おまけに、その家来大勢から寄ってたかって殺された被害者である、と言いだし、吉良上野介は良い人で、討入りはテロだ、と言うのである。これは、テレビに良く出る有名人も発言しているし、テレビ番組でも史実を知らない方々が、大声でテロだと叫んでいる。さらに、吉良上野介復権運動などというのも現れた。

まさに、この新聞記事のようにいじめの事実を知らないと、どんどんいじめられた方が悪人になり、いじめた方が善人になっていく。過去のことで、いじめはいじめ、と認識しないと現在のいじめはなくなるのでない。

その時、その義士達はどこにいたのか（その四）

理事 三輪三郎

内蔵助が川崎平間村の富森助右衛門の寓居から先着していた長男主税の隠れ家（日本橋石町小山屋）へ入ったのは元禄十五年十一月五日であった。これにより名実共に内蔵助統率のもと一挙に向けての体制が整ってきた。

先ず党中の壮年を四組にわけ、毎夜交番で吉良、上杉両家の防備から、上野介の所在並びに動静を偵察することとした。

一方内蔵助からもこれらをもとに指示、命令が次々に出された。

それらの主なものはつぎのとおりである。

(1) 第一訓令（十ヶ条）

これは平間村滞在中（十日間）に同志たちに発したもので、指揮系統を明確にし、討ち入りの準備、心構えを徹底したものである。

例えば第二条には「討ち入りの服装は黒小袖を用い、帯の結び目は右脇、禪は前下がりにはずれないように」などとある。

(2) 人々心覚（一六ヶ条）

打ち込みについて実に細かい事がしめされてる。

第七条には味方の負傷者は肩にかけても

引き揚げることができなるときは、かわいそうだが、首を落として引き揚げるとある。

(3) 討入起請文（神文）前書

前述の第一訓令に基づき、いま一度改めて連判をして、その団結を強固にするための討ち入り綱領である。

四ヶ条から成り、十一月七、八日、堀部弥兵衛宅に大石、吉田ら幹部が集まって作成した。

(4) 討ち入り口上書

討ち入り趣意書ともいわれる。文言については儒官 細井広沢の意見も聞くなど分かり易く、実に名文である。

將軍綱吉も賞賛したという。萱野三平自害の際の父への遺言状を参考にしたともいわれている。

(5) 去年以来志浅深乃働乃次第

現代の管理組織において一般におこなわれている勤務評定を思い出す。その内容は上方衆に甘く、江戸衆に辛いという見方もある。

以上掲げた五項目のうち最初の四項目は内蔵助

吉田、原ら、いわゆる参謀格の合議によって作られたものであるが、これ（去年以来志浅深之働之次第）こそ発想から、推敲、最後の浄書まで内蔵助独りによるいわゆる独作と見るべきであろう。討ち入りの決まった時点では秘密裏に寺井玄溪落合与左衛門、井上団右衛門には送られていた。

去年以来志浅深之働之次第

- ① 大石内蔵助
- ② 原惣右衛門
- ③ 吉田忠左衛門
- ④ 間瀬久太夫
- ⑤ 小野寺十内
- ⑥ 大石主税
- ⑦ 潮田又之丞
- ⑧ 大高原五
- ⑨ 中村勘助
- ⑩ 武林唯七
- ⑪ 近松勘六
- ⑫ 松村喜兵衛
- ⑬ 松村三太夫
- ⑭ 間喜兵衛
- ⑮ 間十次郎
- ⑯ 早水藤左衛門
- ⑰ 岡野金右衛門
- ⑱ 小野寺幸右衛門
- ⑲ 千馬三郎兵衛
- ⑳ 岡島八十右衛門
- ㉑ 勝田新左衛門
- ㉒ 菅谷半之丞
- ㉓ 貝賀弥左衛門
- ㉔ 矢頭右衛門七
- ㉕ 三村次郎左衛門
- ㉖ 堀部安兵衛
- ㉗ 奥田孫太夫
- ㉘ 横川勘平
- ㉙ 堀部弥兵衛
- ㉚ 富森助右衛門
- ㉛ 倉橋傳助
- ㉜ 奥田貞右衛門
- ㉝ 磯貝十郎左衛門
- ㉞ 不破数右衛門
- ㉟ 矢田五郎右衛門
- ㊱ 赤埴源藏
- ㊲ 神崎與五郎
- ㊳ 前原伊助
- ㊴ 大石瀬左衛門
- ㊵ 吉田澤右衛門
- ㊶ 間瀬孫九郎
- ㊷ 杉野十平次
- ㊸ 茅野和助
- ㊹ 片岡源五右衛門
- ㊺ 間新六
- ㊻ 木村岡右衛門
- ㊼ 寺坂吉右衛門
- ㊽ 右は内蔵助自筆

この一挙のために用意された公金は六百九十両であった。現在のお金にすると一両十万円として六千九百万円ということになる。

内蔵助が元禄十四年五月遠林寺で残務整理を行い、手許に残った金が約六〇〇両、これに瑤泉院の化粧料を町人に貸し付けたくち取り立ての出来た約九〇両、合計で六百九十両である。その年の冬、内蔵助の最初の江戸下向のとき。麻布今井町の三次浅野家下屋敷に遙泉院にご機嫌伺いの際、このお金を一挙のための費用として使うことの手解をもらっていたものである。

そのお金も内蔵助がこの度江戸入りした時点ではほとんど無くなっており、同志たちの生活も困窮をきわめていた。

吉田忠左衛門が京都の綿屋善右衛門に頼んで一〇〇両を送ってもらった時にはみんなが集まってあつという間になくなったという。

胴元(どうもと)である内蔵助らのいた小山屋でも例外ではなかった。

その様子について水戸藩医原南陽の記した「聴雨窓雜纂」の一部を現代文にしてみた。

「放蕩にて夜遅く酔って帰り、朝はいつまでもおきず、衣服からして貧乏のものであった。米屋、薪屋の諸掛りも仲々払わず、座敷料も滞りがちであった。

諸貸方も度々その掛けを取ろうと詰めかけたが、丁寧には断られ、言葉も荒げても言い訳をして謝り、取れずじまいで、帰って行く有様であった。

座敷も箒を使った様子もなく、この人達いつまで浪人しているのだろうかと言っていたそんな時、赤穂義士が主人の仇を討ったと早朝聞いた。

彼らも赤穂浪人であるとのことだったので、そ

の様子を聞こうと思つて戸外から呼んでみたが返事もなかった。いつものように酔いつぶれて寝ているのだろうかと思ひ戸を開けて入つてみると浪人の姿は見られず、いつもとは違いよく掃除してあり、挟箱一つの外はなんにもなかった。

不思議に思つて中に入つてみると、一〇〇両を添え、諸方の借金をよろしく、大石内蔵助と添書きのある一通の書き置きがあつた。

この時あの浪人が内蔵助であることを初めて知つた。」

十一月内蔵助の江戸入りの時点では五十五名の同志がそれぞれの隠家に集結していたが、その後脱盟者が出始め、十二月十一日の毛利小平太の失踪により、遂に四十七名となつてしまった。

八名の脱盟者は次のとおりである。

- (1) 小山田庄左衛門 (百石、江戸定府) (十一月二日、脱盟以下同じ)
- (2) 田中貞次郎 (百五十石) (十一月四日)
- (3) 中田理平次 (百石) (十一月二十日)
- (4) 中村清右衛門 (百石、江戸定府) (十一月二十九日)
- (5) 鈴田重八 (小姓、三〇石三人扶持) (十一月二十九日)
- (6) 瀬尾孫左衛門 (内蔵助家来) (十二月六日)
- (7) 矢野伊助 (足軽 五石二人扶持) (十二月六日)
- (8) 毛利小平太 (二十石三人扶持) (十二月)

十一日)

参考文献

- 新大石内蔵助の生涯 中島康夫
- 赤穂義士実纂 斎藤 茂
- 赤穂義士の手紙 片山伯仙
- 忠臣蔵 山本博文
- 金銀忠臣蔵 中江克己
- 元禄快挙真相録 福本日南

忠臣蔵の危機

毎年暮れには忠臣蔵のドラマが放映されていましたが、ドラマは無くなりました。忠臣蔵のイベントにも以前より人が集まりません。

現代は、何でも言える時代になり、忠臣蔵(元禄事件)を知らない方でも、ユーチューブやパソコン上で、忠臣蔵の批判を繰り返しております。その何もわかっていない方の話しを更に何もわからない方が信じてしまう、恐ろしい循環の現象が発生しております。このことが、テレビの視聴率にも影響して、テレビ局も忠臣蔵のドラマを作らなくなります。

正しい元禄事件を知ることが一番求められます。

浅野内匠頭三一九回忌法要報告

中央義士会評議員 横山哲也

平成三十一年三月十日、浅野内匠頭三一九回忌の法要を泉岳寺において催しました。

例年三月十四日が平日の場合、直前の日曜日に開催してきましたので、今年は十日となりました。二十七名の方々の参加がございました。

午後二時から、泉岳寺本堂において浅野内匠頭の法要が執り行われ、卒塔婆が子孫の方によってお墓に添えられました。



本堂での法要 お焼香中

その後、本堂横の庫裏において例会が行われ、中島理事長の「吉良上野介は自分の妻から自殺をすめられていた話」と題した講演、泉岳寺とその周辺についての変遷など、たいへん興味深い話を伺うことができました。

その後懇親会に入り、ご子孫や遠方から来られた方々の紹介が行われました。続いてお楽しみ抽選会で豪華賞品などが当たり、今年も盛会のうちに幕を閉じました。
(写真 荻原)



例会での講演

第一〇四回月一勉強会

「泉岳寺周辺の史跡を巡る会」報告

中央義士会評議員 横山哲也

平成三十一年四月六日、平成最後の月一勉強会はいつもの新橋での勉強会ではなく、「泉岳寺周辺の史跡を巡る会」と題した忠臣蔵関連史跡を巡る勉強会となりました。この日は高輪町会による第八回高松桜まつりが開催されており、中央義士会も旧細川邸切腹地前で書籍の販売と元禄事件の相談を行いました。合わせて切腹地も公開し、地元の方々も敷地内に入ることがないため、開いていることに驚く人も多く、朝から多くの見学者が訪れていました。桜もまだ満開、気候も穏やかで過ごしやすく、まさに史跡巡りに最適な日となりました。



移動中 桜が満開です

午後二時に旧細川邸切腹地集合、三十名近い方々の参加がありました。中島理事長より挨拶、本日の巡回コースと切腹地の説明があり、いよいよ出発です。まずは血洗の池。高松中学校の敷地内にあつて通常は入れないため、特別に許可をいただいて見学です。かつては池の上から水が滝のように流れ込んでいたとのこと。池と切腹地は若干距離があり、実際に義士たちの血を洗ったかどうかは不明のようです。また、池の側には水野家屋敷跡にあつた井戸枠が移されてあります。こちらもこの井戸の水で赤穂義士の遺体を清めたとの謂れがあるようです。



血洗の池

続いては、泉岳寺塔頭の廣岳院の外観見学。「泉岳寺書上」を記した承天はこのお寺の住職とされています。その説明等も中島理事長から話がありました。向かいには東海大学付属高等学校・中等部がありますが、ここは旧国昌寺跡です。泉岳寺のちようど

裏側にあたるこの寺は大石頼母助の菩提寺でした。明治に入って廃寺となり正山寺と合併、お墓も移されました。この国昌寺に頼母助の墓があつたように、本来は君主と家臣は祀られるお寺が異なるのが当たり前で、浅野内匠頭と赤穂義士のように同じ泉岳寺に祀られるということは異例中の異例のことであつて、これはこの時代のゆるみの現れである、という中島理事長からのお話もありました。

次に向かったのは等覚寺。忠臣蔵とは関係ありませんが細川邸の横に三〇〇年間あつたということで外観見学をさせていただきました。

その後、正山寺訪問。先述の国昌寺から移された大石頼母助、その子又三郎・亀之助の墓があります。また、近くには妙海尼のご子孫が経営されている石材店がありました。

最後に訪れたのは清久寺です。礪貝十郎左衛門の母の菩提寺で、礪貝十郎左衛門のご位牌が納められています。ご住職のご厚意でそのご位牌を見せていただきました。気さくなご住職の話では、母親が泉岳寺の戒名が嫌だったのかそれとは異なる戒名「鉄肝元心居士」が記されていることや、その左には「菊園禪童子」という子供の戒名があり、十郎左衛門と吉良家の女中との間の子だったらロマンチックだけど、とのことでした。

帰りの急勾配の坂には応えましたが、午後四時過ぎに旧細川邸切腹地に戻り解散となりました。

この「桜まつり」は来年も開催されますので、会員の方、どうぞ足を伸ばしてください。

(写真 武類)



清久寺前で 全員集合写真



旧細川邸 大石内蔵助ら切腹地跡

第二十四回忠臣蔵愛好会報告

引き揚げコースを歩く

平成三十一年一月二十七日に、恒例の、吉良邸跡から泉岳寺までの赤穂義士引揚げコースを歩く会が行われました。当日は好天に恵まれたこともあって、およそ五十名の方々が参加されました。

JR両国駅に九時十五分に集合、挨拶と注意事項の説明の後、九時半から吉良邸跡で中島代表の討入り時の様子の説明があり、ここで二つの班に分けて、引き揚げコースに出発。コース途中の説明は、富岡、荻原の二名が担当しました。また、到着の泉岳寺と旧細川邸切腹地の説明は中島代表が行いました。



両国吉良邸前

コースのおおよそは次の通り。

両国橋―万年橋―永代橋―越前堀児童公園―聖路加タワー（ここで昼食）―浅野家上屋敷跡―築地本願寺―汐留橋―旧新橋停車場跡―日本テレビ前―金杉橋―御田八幡宮―泉岳寺―細川家下屋敷跡。

最新の研究結果を反映し、ほぼ赤穂義士が歩いた道に近いルートを通りました。午後三時四十分には全員無事に泉岳寺に到着。浅野内匠頭と赤穂義士の墓に詣でた後、通常は入れない細川家下屋敷跡の、大石内蔵助ら十七名の切腹地を見学しました。ここは、切腹位置が特定できている唯一の場所で、昭和三十三年に中央義士会が整備し、現在は東京都史蹟に指定されています。

なお、この引揚げコースを歩く前の、一月二十日に恒例となっている細川家下屋敷跡の切腹地の清掃を、十一名の有志により行いました。（文・写真 荻原）



旧細川邸大石らの切腹地の説明



切腹地清掃の皆さん（1月20日）

（後列右から3人目の金子さんが、2月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り致します）



泉岳寺での全員集合写真



泉岳寺本堂での法要
(お焼香中)

赤穂義士討入り満三二一六年祭報告

平成三十年十二月十四日(金)は、赤穂義士討入り満三二一六年目に当たり、泉岳寺において、赤穂義士追憶の会が催されました。明治四十三年に福本日南翁が開始して以来、今回で百八年目の開催となります。

当日は金曜日でしたが、八十名を超える方々の参加があり、会場は大変賑わいました。

午後二時から泉岳寺本堂において、赤穂義士の法要が行われ、その後本堂横の庫裏において、例会が行われました。

その後、中島代表の「討入り後、赤穂からの墓参り」の講演が行われ、御子孫の紹介がありました。また、お楽しみ抽選会で豪華賞品などが当たり、今年も盛会裡に幕を閉じました。

今年もいつもの二倍のスペースを利用していただき、泉岳寺様に御礼を申し上げますと共に、ご不便をおかけした皆様にお詫び申し上げます。

なお、十二月八日、九日の二日間、両国で元禄市が行われました。中央義士会も例年通り、本販売と「赤穂義士何でも相談室」を開きました。

(文・写真 萩原)



田辺凌鶴氏の熱演

まずは、中央義士会名誉会長浅野長氏、赤穂市文化とみどり財団理事岡島三郎氏の挨拶がありました。続いて、今年初登場の、田辺凌鶴氏による講演「赤垣源蔵徳利の別れ」をじっくりと語って頂きました。



両国元禄市の様子
(左側のテントが中央義士会のテント)



講演の様子

第7回忠臣蔵通3級検定試験問題

[申込方法]

・ 解答用紙の請求

検定試験の受験をご希望の方は、住所、氏名、電話番号、FAX番号並びに、第7回3級検定試験申込と記入した用紙を、下記宛てFAXまたは郵送でお送り下さい。FAXをお持ちの方は、できるだけFAXをお願い致します。また、メールでも受け付けております。折り返し解答用紙をお送り致します。

宛先 〒135-0047 東京都江東区富岡1-17-1-403

NPO法人 忠臣蔵倶楽部

TEL/FAX 03-3630-1927

メール office@chuushingura.jp

・ 受験料と振込先

3級の受験料は1000円です。振り込みで受験申込となります。

郵便局の青色の払込取扱票で下記へお振り込みください。お振込み以降に質問にお答えさせていただきます。

NPO法人 忠臣蔵倶楽部 00190-0-346038

払込取扱票の通信欄に「第7回3級試験申し込み」と記入下さい。

払込料金をご負担をお願いしております。

[解答の送付]

解答はFAXで下記へお送りください。郵送の場合は、下記の中央義士会事務局へお送りください。メールでは受け付けておりませんのでご注意ください。

FAX 048-973-3790

郵送宛先 〒343-0032 埼玉県越谷市袋山 58-12 中央義士会事務局

- ・ 提出締め切りは令和元年年9月末です。可否は11月になってからお知らせ致します。

[注意事項]

- ・ 合格点は80点です。24問以上正解で合格となります。
- ・ ご自宅で資料を調べて解答していただいて結構です。
- ・ 試験問題を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員、受験者同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げるのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題も出題されています。
- ・ 中央義士会の過去の出版物でも誤記はありますので充分確認の上、解答して下さい。
- ・ 受験料は締め切りの1ヶ月前までにお納め下さい。
- ・ 最終提出日は、令和元年9月末日です。

忠臣蔵110番

○講演・探訪会の講師派遣（有料） ○テレビ・ラジオ番組制作協力（有料）

○忠臣蔵書籍出版


○忠臣蔵図書の買い取り・販売 等

携帯 080-8908-1633 メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

第1問	あなたの好きな「歴史学者」を1名挙げて下さい。 「 」
第2問	インターネット上やテレビで赤穂義士のことを批判している方を3名挙げて下さい。 ① 「 」 ② 「 」 ③ 「 」
第3問	作家（小説家）は赤穂義士のことを知った上で執筆しているのでしょうか。一つだけ選んでください。 ① 充分知っている ② 調べていない ③ 思い付きで書いている
第4問	徳川綱吉を名君と称える歴史学者がおりますが、あなたはどのように思いますか。 ① 名君である ② 精神病である ③ 歴代最低の暴君である
第5問	生類あわれみの令を廃止した将軍はどなたでしょうか。 ① 綱吉 ② 家宣 ③ 家光 ④ 吉宗
第6問	近年、忠臣蔵を逸脱している外国映画が3本上映されていますがどう思いますか。 ① 表現は自由なので、あります ② エンターテインメントなのでよしです ③ 作るのも上映するのも無駄です ④ 何のため作るのかわからない
第7問	元禄赤穂事件は次のどれに当てはまるでしょうか。 ① 活劇 ② 悲劇 ③ 人情劇 ④ 家族劇
第8問	赤穂義士が、吉良邸から泉岳寺まで引揚げに要した時間は次のどれでしょうか。 ① 約3時間 ② 約4時間 ③ 約5時間 ④ 約6時間
第9問	赤穂義士の引揚げ時に渡らない橋は次のどれでしょうか。 ① 両国橋 ② 永代橋 ③ 宇田川橋 ④ 高橋
第10問	テレビの歴史番組を見てどう思いますか。 ① スタッフの次元の低さを感じる ② テレビそのものが低俗なものである ③ 懸命に作っているのだからよい ④ 忠臣蔵をわからない方が解説している

第22問	細川家下屋敷（大石内蔵助ら切腹地）の敷地はどこにあるでしょうか。 ① 都営住宅 ② 高松宮邸 ③ 港区 ④ 高松中学
第23問	元禄14年、大石内蔵助は何のために江戸へ下ったのでしょうか。一番大事な事を一つ挙げて下さい。
第24問	次の文章で正しいのはどれでしょうか。 ① 松之廊下で梶川與惣兵衛は浅野内匠頭を羽交い締めにして止めた ② 浅野内匠頭の小さ刀を取り上げたのは、表坊主の関久和である ③ 梶川與惣兵衛は浅野内匠頭の右手だけを左手で押さえて、自身の右手で小さ刀を取り上げた
第25問	落合与左衛門（瑤泉院用人）へ元禄15年12月15日討入りの報告をしたのはどなたでしょうか。 ① 寺坂吉右衛門 ② 大石三平 ③ 甚三郎 ④ 佐藤條右衛門
第26問	瑤泉院は討入りをいつ知っていたのでしょうか。（上野介を討つことです） ① 元禄15年12月13日 ② 元禄15年12月14日 ③ 元禄15年12月15日 ④ 元禄14年11月14日
第27問	赤穂浅野家の学問を一手に引き受け、全藩士の勉学を教育してきた学頭はどなたでしょうか。 ① 山鹿素行 ② 近藤源八 ③ 安井彦右衛門 ④ 菅谷半之丞
第28問	討入り後、寺坂吉右衛門は上方へ急走しますが、最初に着いた所（目指した人）はどこでしょうか。 ① 亀山の自分の妻 ② 広島浅野大学 ③ 京都の寺井玄溪 ④ 京都の綿屋善右衛門
第29問	討入りの公金（690両）の他、大石内蔵助は個人的に所有していたお金はいくらだったでしょうか。 ① 440両 ② 340両 ③ 240両 ④ 140両
第30問	琴の爪で有名な赤穂義士は下記のどなたでしょうか。 ① 岡野金右衛門 ② 木村岡右衛門 ③ 片岡源五右衛門 ④ 磯貝十郎左衛門

中央義士会
 理事 進藤 務
 東京都板橋区在住


 家紋「蛇の目」
 中央義士会 勝田新左衛門子孫
 評議員 勝田 芳造
 東京都足立区在住

NPO法人忠臣蔵倶楽部
 代表代行 荻原 栄
 NPO法人のホームページは <http://www.chuushingura.net/> です

NPO法人忠臣蔵倶楽部
 理事 三輪 三郎
 川崎市麻生区在住

会 員 募 集

研究者が足りません。参加しませんか。進んでいる忠臣蔵を体感しませんか。
 080-8908-1633
chuogishikai@tokyo.email.ne.jp

NPO法人忠臣蔵倶楽部
 理事 遠藤 信夫
 静岡県富士市在住

編集後記

先日、ユーチューブを見ておりましたら、元禄事件を語る方がいて、拝見しておりましたら、元禄事件を主軸に「正義」の紙をホワイトボードに貼り付けて、話しを進めておりました。元禄事件は「喧嘩」でしょう。「喧嘩」というのは、始まりは小さな出来事でも大きくなれば戦争にもなります。ですから、四十七士も初めから死を覚悟して行動しておりました。

その行動が「正義」などと思つて突き進んでいったわけではありません。「主人の無念」を晴らして、民衆から「称賛」を浴びたのは事実ですが、四十七士の行動を「正義」に持つて行くのは、少しお勉強が足りないのではありませんか。忠臣蔵倶楽部に入り直して、勉強し直しませんか。

編集者 中島康夫(企画・編集・検証)
 荻原 栄(編集)、三輪三郎(校正)、横山哲也(校正)
 エム・シヨット(印刷)

寺坂吉右衛門最終章執筆中
 今より三十一年前に起こった寺坂脱盟論争。その時の生き残り中島が、義士の生き残り寺坂吉右衛門雪冤のため新証拠を揚げ、今決着をつける。
 令和元年十二月十四日発刊予定
 〇八〇―八九〇八―一六三三